2019年度事業報告

1　児童虐待防止シンポジウム開催事業

子ども虐待の原因の一つとしての「親のメンタルヘルス問題」を取り上げ、こうした親子への在宅支援をテーマに、児童福祉、母子保健、精神保健福祉の現場での取組み状況や課題が紹介された。オブザーバーとして参加された医師からのコメントもあり、内容に富んだシンポジウムとなった。当日は、さまざまな分野から約１８０名の参加があり、アンケートでは回答者のほぼ全員が「満足」と回答し、とくに浦河東町診療所の取組みには大きな関心が寄せられた。
メンタルヘルス問題を扱うシンポジウムは今回で4回目となり、この問題の状況や課題をおおよそ明らかにすることができた。今後は、これらの成果をもとに提言等のソーシャルアクションにつなげていく予定である。

◆　第29回シンポジウム

- ● テーマ　：　メンタルヘルス問題のある親とその子どもに対する在宅支援を考える
- ● 日時・会場：　2020年1月25日　星陵会館
- ● 参加者　：　約180名
- ● 内容　：　基調講演・シンポジウム

2　児童虐待防止啓発活動事業

子ども虐待防止に対する意識の向上と虐待の予防、早期発見・対応の充実を図るために、オレンジリボンフォーラムの開催、オレンジリボンの配布活動、支援団体とのイベントの共催、ポスターコンテスト、鎮魂集会の実施、ホームページの活用等、子ども虐待防止のためのオレンジリボン運動を幅広く実施した。

◆　春のオレンジリボンキャンペーン

児童福祉週間（５月）を中心にオレンジリボンの着用を呼びかけた。個人サポーター（約18,800人）にオレンジリボンポスター掲出のお願いをし、ポスター350枚を提供した。また、ホームページでオレンジリボンの着用を呼びかけ、11月の虐待防止月間のみならず市民の参加意識を高められるよう子ども虐待防止の啓発をした。

- ● 実施時期　：　2019年4月中旬～5月末日
- ● 内容　：　個人サポーターを中心に、オレンジリボン着用、ポスター掲出の呼びかけ等、啓発活動を実施した。

◆　第7回 オレンジリボンフォーラム

今年度は、CFRびわこの共催により、滋賀県彦根市で「オレンジリボン七夕フェスタ」を開催した。
来場した親子に楽しい時間を過ごしていただき、息抜きの場を提供する等、このフォーラムを通して「子どもと子育てにやさしい社会」、「子ども虐待のない社会」の実現につながるような場を提供することができた。

- ● 日時・会場：　2019年7月6日（土）　ビバシティ彦根
- ● 参加者　：　約1,000名
- ● 内容　：　「オレンジリボン七夕フェスタ」
  「子どもの笑顔がいちばん！」を合言葉に、ステージプログラム、各種ブースなどに親子が参加した。

◆　ポスターコンテスト事業

一般市民への啓発を目的に、全国から子ども虐待防止ポスターのデザインを募集し、オレンジリボン運動のポスターを作成した。また、参加団体・企業と共にオレンジリボン運動ポスター約10,000枚を掲出した。

- ● 実施時期　：　募集…12月～3月、選考4月、表彰…6月
- ● 内容　：　最優秀賞1名、優秀賞1名、オレンジリボンサポーター賞1名、ユース賞1名、特別賞、企業賞/団体賞を設定し、美術系の専門学校・大学・高校等を中心に広く応募を呼び掛けた。応募総数378作品の中から各賞が選定され、6/30に受賞者の表彰を行った。

- ● 選考したデザインよりポスターを作成し、関係機関等に配布・活用を通じて虐待防止の啓発につなげた。

＜最優秀賞＞

＜優秀賞＞

＜オレンジリボンサポーター賞＞

＜ユース賞＞

◆　グッズ作成・配布

従来からのオレンジリボングッズのアイテムに新たに蛍光ペンとエコバッグを追加し、啓発活動を行った。組織ぐるみでの啓発活動に活用されるケースが多く、配布用にボールペン、ハンカチタオル、蛍光ペンの注文が目立った。あわせてのぼり旗をHPより購入できるようにし、11月を中心にオレンジリボン啓発活動に広く活用された。また、啓発ツールとして、チラシ、ポスター、布リボン、啓発冊子、マスク等を作成・配布し、啓発を行った。

＜主なグッズ頒布数推移＞

グッズ	2018年度	2019年度
オレンジリボンバッジ	11,286	15,260
啓発ツール	663	954
今治ハンカチタオル	3,211	2,696
クリアファイル	5,295	5,048
Tシャツ	381	499
ボールペン	3,691	5,492
蛍光ペン	ー	1,319

◆　全国一斉オレンジリボン街頭配布

児童虐待防止推進月間中に実施するイベントとして、全国各地で支援企業/団体の協力による啓発ツールの配布等、オレンジリボン運動の啓発活動を行った。

- 実施時期　：　2019年11月3日（日・祝）を中心にその前後で実施。
- 内容　：　駅前等の公共の場所やイベント会場等、多くの人が集まる場所を中心にマスク23万枚、チラシ9万枚を配布するとともに、のぼり旗やポスター1100枚の掲出、声かけなどで子ども虐待防止について啓発・呼び掛けを行った。
- 一斉配布協力企業・団体数：　114企業・団体

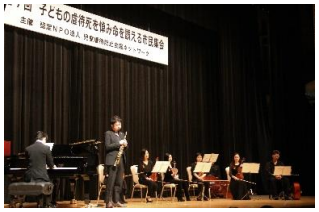
オレンジリボン事務局（弊団体）による対応

- 実施日　：　2019年11月1日～3日
- 実施場所：東京都港区台場
- 内容　：　ドリーム夜さ来い祭りの会場で、オレンジリボン運動の啓発を行った。個人サポーターよりボランティアを募り、総勢30名に参加していただき、2日間で約7000枚のマスクを配布した。また、ブースを出展し、パネル展示やチラシ配布を行い、大勢の人々が行きかうお台場で精力的に啓発を行った。

◆　鎮魂集会事業

子ども虐待によって失われた子どもの命を悼み、児童虐待防止を啓発することを目的に鎮魂集会および鎮魂の行進を行った。

- 日時・会場　：　2019年11月10日（日）　銀座ブロッサム中央会館
- 参加者　：　約450名
- 内容　：　第17回子どもの虐待死を悼み 命を讃える市民集会
  第1部：虐待死した子どもの名前が読み上げられ、参加者全員で黙祷を捧げた。
  第2部：講演「出会いこそ、生きる力」　サヘル・ローズ氏
  第3部：子ども虐待防止を訴える「鎮魂の行進」は、天皇皇后両陛下のパレードが同時間帯で実施されたため、諸般の理由により中止となった。



◆　学生によるオレンジリボン啓発活動

厚生労働省や関係機関の協力の下、「学生によるオレンジリボン運動」について、社会福祉士養成校など全国にある大学等に呼びかけ、全国から65校の参加登録があった。登録校には啓発ツール一式をサンプルとして提供した。また、昨年に引き続き、全国大会（報告会・以下に詳細）を開催し、参加登録校の中から7校が発表を行い、2校が観覧した。

- 日時・会場　：　2020年2月16日（日）　国立オリンピック記念青少年総合センター
- 参加者　：　約80名
- 内容　：　「学生によるオレンジリボン運動全国大会」
  大学等で実施したオレンジリボン運動の活動内容や今後の取り組みについて学生ならではの工夫をこらしたプレゼンテーションが行われた。
  厚労省、東京都、支援企業・団体（ソフトバンク㈱、（公財）資生堂財団）より審査員としてご参加いただき、オレンジリボン大賞、厚労省虐待防止対策推進室・室長賞、奨励賞を決定し表彰を行った。

◆ オレンジリボン情報交換会

主に支援企業・団体、個人サポーターを対象に、オレンジリボン運動に携わる者同士の交流を目的とした情報交換会を行った。

● 日時・会場 ： 2019年7月19日（金） オフィス東京
● 参加者 ： 約80名 （支援企業・団体、個人サポーター）
● 内容 ： 「オレンジリボン運動 情報交換会」
厚生労働省より子ども虐待防止対策の最新の取り組みの詳細についてご講演をいただき、また、支援企業・団体を代表して3つの組織より、オレンジリボン運動の活動について、発表が行われた。
会の後半は、参加者同士が交流できる時間を設け、意見交換の場とし、今後の活動の推進を図った。

◆ 市民ミーティング （ワークショップ）

主に個人サポーターに参加を呼びかけ、市民目線で子ども虐待防止のために一人ひとりに何ができるのか、グループディスカッションを行い、参加者同士で意見を交換し、考える場とした。年間を通して3回開催した。

● 日時・会場 ： 2019年4月14日（土） 文京区シビックセンター
2019年9月14日（土） すみだ産業会館
2020年2月15日（土） 三多摩労働会館
● 参加者 ： 延べ100名 （主に個人サポーター）
● 内容 ： 「私たち一人ひとりに何ができるか～子ども虐待防止のための市民ミーティング～」
市民が「自分たちでできる虐待防止策」を考えるとの目的で、ワークショップを行った。グループごとに、活発なディスカッションが行われ、さまざまな意見や提案について発表を行った。最後に一人一人が自分の決意を示した宣言カードを掲げ、虐待防止への決意を共有した。

3 目的を同じくする団体との連携事業

◆ イベント等共催事業

支援団体と協力して子ども虐待防止の啓発を行った。2019年度は全国9団体の協力を得て啓発活動を行った。

● 実施時期 ： 2019年度中
● 内容 ： 企画・広報等の支援をすると共に開催費用を一部負担するなどし、全国各地の支援団体と共催でイベント等の啓発活動を実施した。

支援団体名	啓発内容
一般社団法人ANDMAMACO	オレンジリボンMAMACOフェスタ ～子ども達の輝く未来のために～
CFRびわこ	第10回 びわ湖一周オレンジリボンたすきリレー
ゴスペルクワイア エノーマスヴォイス	オレンジリボンフェスタうらやす2019「ゴスペルコンサート」
特非）子どもの虐待防止ネットワーク・しが	高校生への出前講座 虐待を授業で学び・話し合い・将来の子育てを考える
星槎箱根仙石原総合型スポーツクラブ	地域住民参加型スポーツイベントでのオレンジリボン啓発
子どもの幸せを願うネットワーク こども幸せねっと	ちたオレンジリボンキャンペーン2019 オレンジリボン運動を広げよう！
一般社団法人日本ベビーダンス協会	ベビーダンス講習イベントにてオレンジリボン啓発
オレンジゴスペル実行委員会	ゴスペルコンサートを通じての子ども虐待防止活動の啓発
特非）子どもの虐待防止ネットワーク・かがわ	かがわ子育てフェスティバルにおいてオレンジリボン啓発

◆ 日本子ども虐待防止学会（JaSPCAN）との連携

2019年12月21日～22日に兵庫県で開催された「第25回学術集会ひょうご大会」で、資料配布用のオレンジリボン不織布バッグを提供し協力した。

【その他】

◆ 子ども虐待防止のための講演、研修および取材

＜新聞、TV、雑誌の取材＞

日 付	媒 体	タイトル	内 容
4月5日	産経新聞	私たちにできる「見守り」「189」	吉田理事長掲載記事
5月3日	日刊ゲンダイ	GW10連休が招く育児疲れ…虐待という悲劇を回避するには	吉田理事長掲載記事
5月10日	読売新聞	親の体罰根絶　険しい道	高祖理事掲載記事
5月11日	AbemaTV	激論「子育てに体罰は必要？」	高祖理事TV出演
6月12日	朝日新聞	孤立深め　追い詰められる親子	吉田理事長掲載記事
7月23日	読売新聞他	西武ライオンズによるオレンジリボン運動	吉田理事長掲載記事
8月3日	東京新聞	親の体罰、法律で禁止に	オレンジリボン運動関連記事
8月22日	スポニチ他	西武ライオンズ 8/21「SAVE THE HOPEオレンジリボンデー」	オレンジリボン運動関連記事
10月1日	朝日新聞	さいたま男児殺害事件「本当の親」像に囚われる危険性指摘する声	吉田理事長掲載記事
10月7日号	AERA	さいたま男児殺害事件「本当の親」像が苦しめる	吉田理事長掲載記事
11月10日	朝日小学生新聞	いやなことがあったら相談して	吉田理事長掲載記事
2月1日	直販流通マガジンVOL.19	『見守り』で、SOS発信できる社会へ	吉田理事長掲載記事
3月5日	女性セブン	その「しつけ」、だから間違っている	高祖理事掲載記事
3月5日	NHK NEWSWEB	臨時休校でストレス虐待リスク高まる恐れ　対策提言	オレンジリボン運動関連記事
複数号にて	東遊商「Toyusho」	オレンジリボン運動	オレンジリボン運動関連記事

＜講演会・研修会等への講師派遣＞

日 付	内　　容
4月29日	「児童虐待防止における民生委員・児童委員の役割」古河市民生委員総会（古河市三和地域交流センター）
5月10日	「児童虐待防止対策のあり方について～抜本的予防対策の必要～」連合子ども・子育て支援担当者会議（日本教育会館）
5月13日	「人権侵害としての児童虐待」入間市要保護児童対策地域協議会（入間市役所）
5月19日	「多様性と子育て」にっぽん子ども・子育て応援団（津田塾大学千駄ヶ谷キャンパス）
5月20日	「子どもの虐待防止のために～市民の見守りで子どもを守ろう～」連合埼玉（さいたま共済会館）
7月8日	「児童虐待防止における民生委員・児童委員の役割」八王子市民生児童委員協議会（八王子市保健福祉センター）
8月25日	「児童虐待防止に向けて～民生委員児童委員・主任児童委員としてできることを考える～」横須賀市民・児協議会(横須賀市健康福祉総合センター)
10月23日	「児童虐待防止法改正における児童相談所・一時保護に与える影響」所沢児童相談所研修会（所沢児童相談所）
2月2日	「子ども虐待のない社会を目指して～人権侵害としての子ども虐待～」飯能市企画調整課（飯能市役所本庁舎別館）

◆ オレンジリボン認知度調査2020（結果）

2020年2月下旬、1万人を対象とするインターネットでの予備調査、およびランダムに選んだ500人を対象とする本調査の2段階による、子ども虐待防止オレンジリボン運動に関する認知度調査を、第1回調査（2017年2月に実施）を引き継ぐ形で実施しました。

調査の結果（わかったこと）

・オレンジリボン運動に関する認知度は、前回調査時の5.7%から7.6%へと増加した。
・オレンジリボン運動に関する認知度は、男女共に、年齢が若い人の方が高い傾向にあることが示された。
・子ども虐待防止への関心は、「どちらかと言えば」を含め「関心がある」と回答した人が6割。
・オレンジリボン認知者と非認知者との間では、子ども虐待問題への関心に差が現れた。
・「子ども虐待」という言葉について強いと感じる人は、オレンジリボン認知者の方が非認知者より多いことがわかった。
・7割以上の人が、オレンジリボン運動について「重要である」、または「どちらかと言えば重要である」と回答。
・オレンジリボン運動の重要性について尋ねたところ、子ども虐待を放っておけないため（74.4%）、社会で進めるべき活動であるため48.2%）、共感する活動であるため（29.4%）という回答が上位を占めた。

・オレンジリボン運動に期待する取り組み（または強化すべきと思う活動）として、次の点が示された。
  -子ども虐待防止のため、1人ひとりにできる具体的な取り組みについての情報発信（48.6%）
  -子ども虐待防止のための制度や先駆的な取り組みに関する情報発信（44.0%）
  -子ども虐待防止に関するイベント等に関する情報発信（27.8%）
・児童相談所虐待対応ダイヤル189に関する認知は、6割近くあることがわかった。

詳細については、オレンジリボンHP/調査研究活動をご覧ください。
http://www.orangeribbon.jp/zenkokunet/research.php